

Cisco WebEx Meetings Server リリース 2.8 の リリースノート

初版 : 2017 年 04 月 12 日

最終更新 : 2017 年 04 月 24 日

Cisco WebEx Meetings Server リリースノート

これらのリリースノートは、Cisco WebEx Meetings Server リリース 2.8 のすべてのバージョンの新機能、要件、制限、および問題を記載しています。これらのリリースノートはすべてのメンテナンスリリースに対して更新されますが、パッチやホットフィックスに対しては更新されません。別段の記載がない限り、各メンテナンス リリースには過去のリリースの機能、要件、制約およびバグ修正が含まれています。Cisco WebEx Meetings Server を展開する前に、システムに影響を与える可能性がある問題について、このリリース ノートを見直すことをお勧めします。

本製品の最新アップデートのソフトウェアをダウンロードするには、次の URL にアクセスしてください: <http://software.cisco.com/download>.

製品 > 会議 > Web 会議 > WebEx Meetings Server > WebEx Meetings Server 2.8 を選択します。

文書類の更新

日付	変更
2017年4月24日	CSCve05932 が追加され、 Cisco WebEx Meetings Server リリース 2.8 での解決済みの問題、(17 ページ) ビルド番号が 2.8 から 2.8.1.17 へ更新されました。
2017 年 5 月 25 日	CSCve04460の 録画の管理、(4 ページ) を修正しました 管理者は、録画に対する制限付きのアクセス権を持っています。

ドキュメントの場所

管理者用文書については、次の場所にアクセスしてください。 <http://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/webex-meetings-server/tsd-products-support-series-home.html>。

ユーザーに以下の URL を提供します。 <http://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/webex-meetings-server/products-user-guide-list.html>。

Cisco WebEx Meetings Server リリース 2.8 の新機能と変更された機能

このセクションでは、本リリースでの新機能や変更について説明します。

システム要件の完全なリストについては、『Cisco WebEx Meetings Server プランニングガイドおよびシステム要件リリース 2.8』を参照してください。詳細についてはhttp://www.cisco.com/en/US/products/ps12732/prod_installation_guides_list.html、

Cisco WebEx Meetings Server (CWMS) リリース 2.7 でサポートされている機能はすべて（メンテナンスリリースで追加されたものを含む）CWMS 2.8 でサポートされています。Cisco WebEx Meetings Server のデータシートにはCWMS の機能とメリットの概要が記載されています。詳細についてはhttp://www.cisco.com/en/US/prod/collateral/ps10352/ps10362/ps12732/data_sheet_c78-717754.html、

仮想マシンの置き換え

この機能を使用すれば、CWMS システムを新規に再構築しなくても、仮想マシンを置き換えることができます。プライマリ管理ノードを除き、CWMS システムの一部であるどの仮想マシンでも置き換えることができます。それで、プライマリ管理ノードが機能していれば、一部のノードの修復が不可能になっていても、システムを復元することができます。

管理者ダッシュボードの強化

ダッシュボード (管理者ホームページ) には、データセンターについての情報へのリンクが表示されるようになりました。

アプリケーション監査ログの強化

今回のリリースには、アプリケーション監査ログのための、以下のような新しい設定オプションが含まれています: ミーティング監査ログを有効にする。この設定を有効にすると、システムはミーティングに関する付加的なログをアプリケーション監査ログに書き込みます。

この設定は、監査者ロールを指定されている誰でも表示でき、設定できます。システムで誰にも監査者ロールが指定されていない場合、この設定は以下のロールのユーザーに表示され、設定できるようになります:

- 管理者
- SSO 管理者
- LDAP 管理者

バックアップ管理

システムバックアップを表示すること、バックアップを選択して検証すること、または災害復旧時に使用することができます。選択したバックアップを削除することもできます。

新規バックアップボタン

システムのバックアップを直ちに開始するには、[今すぐバックアップ]をクリックします。

- この操作はいったん開始すると停止できなくなります。
- バックアップのプロセスが完了するまでは、システムの電源を切ったり、再起動したり、メンテナンスモード(システムがメンテナンスモードの場合)を終了させたりしないでください。
- システムによっては、バックアッププロセスが完了するまで1時間以上かかることもあります。
- バックアッププロセスの状況は、**バックアップ管理**ページで確認できます。

ブラストダイヤルの音声アナウンスメント

ブラストダイヤルミーティングへ手早く、容易に参加できるようにするため、1、2、または3を押して参加するという要件はバイパスできるようになりました。また、以下のオプションのいずれかを選択して、どのプロンプトが表示されるかについても設定できるようになりました。

- 1を押すのをスキップするプロンプト: 出席者はミーティングに直接接続します。1、2、または3を押すようにとのプロンプトは表示されません。Pin設定は以前と同じままで、よろこそプロンプトは表示されます。
- 1を押すのようこそメッセージをスキップするプロンプト: 出席者はミーティングに直接接続します。1、2、または3を押すようにとのプロンプトは表示されません。Pin設定は以前と同じままで、よろこそプロンプトは表示されません。

ユーザーの削除

主催者および管理者のアカウントを削除できます。アカウントを削除すると、ユーザーデータや、そのユーザーが主催の将来のミーティング、および定期的なミーティングも削除されます。過去のミーティングは6か月保持されます。これらはレポート、請求、ライセンス、および監査で必要だからです。



重要

削除後6か月間、削除されたユーザーは削除したアカウントに関連付けられたアドレスを使用して、システムのどのミーティングにも出席できません。ミーティングを主催する能力を無効化し、引き続きユーザーにミーティングに参加することを許可するためには、アカウントのステータスを[非アクティブ]に設定してください。

選択したユーザーのエクスポート

フィルターと検索文字列を使用してユーザーを検索することもできます。検索結果から、1人または複数のユーザーを選択して、コンマ区切り値 (CSV) ファイルにエクスポートすることができます。ユーザーを選択しなかった場合、エクスポートされたCSVファイルには、選択したフィルターにマッチした全てのユーザーが含まれます。

Jabber Support

このリリースは Cisco Jabber Release 11.8 に対するサポートを導入しています。

最終主催日コラム

永久ライセンスまたは仮ライセンスフィルターをユーザータブで選択した場合、システムは結果のセッションタイプコラムを最終主催日コラムで置き換えます。最終主催日コラムには、対応するユーザーが最後にミーティングを主催した日付が表示されます。日付が6か月よりも前になる場合には、コラムには日付ではなく6+ monthsと表示されます。

録画の管理

管理者は、ファイルストレージを管理する目的で、システムのすべての録画に対する制限付きの読み取りアクセス権を持っています。録画の一覧表示、検索、及び削除を行えます。監査者は録画の一覧表示と検索だけが行えます。

ミーティング主催者は自分自身の録画だけを削除できます。誤って削除してしまう危険性を小さくするため、システムは削除された録画を6か月保持します。

メールテンプレートカスタマイズのための新しいパラメーター

このリリースでは、%MeetingNumberNoSpaces% 変数が導入されました。この変数は、スペースが入らないミーティング番号になります。既存の %MeetingNumber% 変数は、スペースの入ったミーティング番号になります。

認証済ユーザーのための制限されたミーティングアクセス

ミーティングの主催者は、参加者にシングルサインオン認証でサインインすることを要求する内部ミーティングをセットアップすることができます。主催者はまた、招待されたユーザだけが参加できる内部ミーティングをセットアップすることもできます。

カスタムタグを設定すれば、参加者が内部参加者と外部(ゲスト)参加者のどちらであるかを識別することができます。これらのタグは、レポートの参加者ユーザー名でも表示されます。

TLS サポート

CWMS Release 2.8 は TLS 1.1 以降をサポートしますが、次の 1 つの例外を除いて、TLS 1.0 はサポートしません。TLS 1.0 を使用する、CWMS から SMTP サーバーへのクライアント接続はサポートされません。

CWMS Release 2.8 は、セキュアな電話会議のために、Cisco Unified Communications Server Release 10.5.2 以降を 11.5 までをサポートしています。

更新されたブラウザへの対応

このリリースでは、次のブラウザバージョンへのサポートが追加されました。

Windows:

- Chrome 57.0.2987
- Edge (Windows 10 で)
- Firefox 52.0.2
- Internet Explorer 11.0.9600

Mac:

- Chrome 57.0
- Firefox 52.0.2
- Safari 10.0.3

バックアップデータの検証

システムは、以下の点についてバックアップを検証します。

- ディレクトリが存在しているか。
- ファイルが存在しているか。
- チェックサムが合っているか。
- フォルダーが CWMS ストレージ内にあるか。

WebEx Meeting Client Application

このリリースは Windows および Mac 用 WebEx Meetings Application version 31.11.6.9 をサポートします。

WebEx ネットワーク録画プレーヤー

このリリースは次の Cisco Network Recording Player バージョンをサポートします。

- **Windows:** 31.11.6.9
- **Mac:** 31.0.0.1100

WebEx生産性向上ツール

このリリースは Windows 向けの WebEx 生産性向上ツール、バージョン 2.82.7000.1174 をサポートします。

サポートされているアップグレードパス

Cisco WebEx Meetings Server のこのリリースは、リリース 1.x から 2.8 へのアップグレードをサポートします。次のポイントが適用されます。

- アップグレードは、システムに作成した主な変更を展開するためのシステムの置換として定義されます。
- アップデートとは、システムを段階的に改善することと定義されます。アップデートでは、修正と小さい改善を展開します。
- アップデートでは、オリジナルシステムのすべてのデータが保持されます。アップグレードでは、ログを除く、オリジナルシステムのすべてのデータが保持されます。
- アップグレード中、ソフトウェアのメジャーバージョンをスキップできません。また、コンパニオンメンテナンスリリースへ直接移動します。

たとえば、1.5MR5 から 2.8MR へアップグレードするには、1.5MR5 から 2.8 へアップグレードしてから、2.8MR へアップデートします。



(注) すべてのアップデートでダウンタイムが必要となります。マルチデータセンターでは、両方のデータセンターを同時にアップデートします。



注意 他方の更新が完了し、両方が再起動ボタンを表示するまで、一方のデータセンターに対する再起動をクリックしないでください。リリース 2.5MR6以降から 2.8 へアップデートする場合、アップデートが完了する前に一方のデータセンターを再起動して、他方のレプリケーションを中断させてください。

次のテーブルを使用して、Cisco WebEx Meetings Server Release 2.8 へアップデートまたはアップグレードする方法を決定してください。

インストールされたリリース	次のリリースへ	パス
1.0 から 1.1	2.8	<ol style="list-style-type: none"> 1 1.5 へのアップデート 2 □□□MR5 パッチ 2 以降にアップデート 3 2.8 へのアップグレード
1.5 から 1.5MR4	2.8	<ol style="list-style-type: none"> 1 □□□MR5 パッチ 2 以降にアップデート 2 2.8 へのアップグレード
1.5 MR5	2.8	<ol style="list-style-type: none"> 1 □□□MR5 パッチ 2 以降にアップデート 2 2.8 へのアップグレード
1.5 MR5 パッチ 2 以降	2.8	2.8 へのアップグレード
2.0 から 2.0MR8	2.8	<ol style="list-style-type: none"> 1 2.0MR9 へのアップデート 2 2.8 へのアップデート
2.0MR9 以降	2.8	2.8 へのアップデート
2.5 から 2.5MR5	2.8	<ol style="list-style-type: none"> 1 2.5MR6 へのアップデート 2 2.8 へのアップデート
2.5MR6。	2.8	2.8 へのアップデート
2.6 から 2.6MR2	2.8	<ol style="list-style-type: none"> 1 2.6MR3 へのアップデート 2 2.8 へのアップデート
2.6MR3 以降	2.8	2.8 へのアップデート
2.7 または 2.7MR	2.8	2.8 へのアップデート
2.8 または 2.8MR	2.8MR	2.8MR へのアップデート

**重要**

アップグレード中またはアップデート中に、システムの音声暗号化タイプ (音声暗号化は -AE/音声非暗号化は -AU) を変更することはできません。展開後に、システムの音声暗号化タイプを変更するための唯一の方法は、システムを新規に展開することです。

詳細については、以下の文書を参照してください。

- *Cisco WebEx Meetings Server* 管理ガイドリリース 2.8: http://www.cisco.com/en/US/products/ps12732/prod_installation_guides_list.html
- *Cisco WebEx Meetings Server* プランニングガイドとシステム要件リリース 2.8: <http://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/webex-meetings-server/products-installation-and-configuration-guides-list.html>

高可用性システムの更新

既存の高可用性 (HA) システムがすでに取り付けられているシステムの場合、プライマリシステムをアップデートすると、HA システムは自動的にアップデートします。アップデートプロセスを開始する前に、すべての HA 仮想マシンがオンになっていて動作していることを確かめてください。

プライマリシステムに高可用性 (HA) システムを追加する場合には、まず HA システムを展開してください。それから HA システムをプライマリシステムと同じバージョンまでアップデートしてください。アップデートプロセスの最後に、HA システムは再起動します。HA システムをプライマリシステムに追加する作業を開始する前に、再起動してから 15 分待つことを推奨します。

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/webex-meetings-server/products-installation-guides-list.html>

制限と制約

インターネットリバースプロキシの削除

インターネットリバースプロキシ (IRP) ノードの削除プロセスの一部として、管理用仮想マシンが IRP サーバーに削除メッセージを送信します。このメッセージが IRP サーバーを削除するため、すべてのシステムに対する外部アクセスが削除されます。メッセージは平文として送信され、認証されていません。巧妙に作成された悪質なコードがこの動作を複製し、サービスが拒否される可能性があります。

IRP ノード上でのポート 64616 へのアクセスを管理用仮想マシンのみに制限することをお勧めします。

生産性向上ツール

EMC SourceOne

WebEx 生産性向上ツールは EMC SourceOne をサポートしません。EMC SourceOne のユーザーは性能上の問題に遭遇する可能性があります。

互換性のないバージョン

Cisco WebEx Meetings Server の各リリースは、Cisco WebEx 生産性向上ツールクライアントの特定のバージョンをサポートします。Cisco WebEx Meetings Server のウェブサイトにある [ダウンロード] リンクから、生産性向上ツールのサポートされているバージョンをダウンロードできます。これら 2 つのアプリケーションの対応しないバージョンを使用すると、問題が発生する場合があります。

録画制限

1 回あたりの最大録画サイズは 2.2 GB です (既存のシステム制限)。Multi-data Center の場合、すべてのデータセンターに対して使用できる十分なストレージ容量があることを確認してください。録画の最大数は、ストレージサーバーの容量によって決まります。以下の式を使用すれば、標準的な 5 年間に必要なストレージサーバサイズを予測できます。

1日に録画することが予想されるミーティングの時間数 * 1 時間当たりの録画につき 50-100 MB * 5 年間 * 1 日につき 24 時間 * 1 年につき 365 日

ユーザーごとのストレージの制限はありません。システムは録画をユーザーが削除するまで保存します。重要な録画が誤って削除されることを防止するため、録画の自動削除を有効にする設定はありません。ストレージサーバーは、削除するようにマークされた録画を最大 6 か月保存します。その期間中であればまだ、ユーザーは録画を他のメディアにアーカイブすることができます。

ストレージサーバーを構成し、管理ダッシュボード設定 > ミーティング > 参加者特権で > 録画を確認するとき、録画設定はシステムワイド設定です。

セッションタイプ

セッションタイプはサイト管理者がカスタマイズしてユーザーに割り当てることができる機能およびオプション (プロファイル) の定義済みバンドルです。デフォルトのセッション (ミーティング) タイプは PRO セッション タイプです。PRO セッション タイプとカスタムセッションタイプの関係が原因で、PRO セッション タイプは変更しないことをお勧めします。最良の方法はカスタムセッションタイプを作成して変更することです。

SSO および電子メール アドレスの変更

このリリースでは、IDプロバイダ (IdP) サーバーは任意の一意で静的な Active Directory (AD) フィールドを SSO 構成用の NameID として使用することができます。メールアドレスの変更機能を使用する予定であれば、AD のメールフィールドは静的にできません。IdP サーバーで、NameID フィールドのマッピングを、メール以外の一意な AD フィールドに変更してください。メールアドレスの変更機能を使用しない予定であれば、NameID フィールドのマッピングを変更する必要はありません。



注意

NameID を AD のメールフィールドにマッピングしていて、ユーザーのメールアドレスを変更すると、システムは、変更されたアドレスごとに新しいユーザーアカウントを作成します。

Outlook は Exchange サーバーと 1 日に 1 回同期します。Exchange サーバー上の既存ユーザーの電子メールアドレスを変更しても、その変更は即座に Outlook に伝播されません。同期が行われるまで、システムはユーザーの以前の電子メールアドレスを受信し、ユーザーが見つからないという通知を発行します。Outlook が Exchange サーバーと同期するまで、代理 (プロキシ) ユーザーはユーザーのためにミーティングをスケジュールしたり、代替ホストとしてユーザーを特定することができません。

システムを手動で同期することではこの問題を解決できません。この制限は CWMS の問題ではなく、Outlook および Exchange の設計の結果です。

SSO の設定について、[\(13 ページ\)](#) も参照してください。

Windows 10 および Edge ブラウザの制限

Edge ブラウザ (Windows 10 用) は、WebEx 録画の再生をサポートしていません。

仮想デスクトップインフラストラクチャ

次の制限は仮想デスクトップインフラストラクチャ (VDI) 環境に影響を与えることが知られています。

- Cisco WebEx Meetings Server の本リリースがサポートするデスクトップ仮想化ソフトウェアは、Citrix XenDesktop および XenApp だけです。
- 仮想デスクトップ環境の構造的な制限はビデオの品質に影響を与える場合があります。ビデオを送信するときに、フレームレートが低くなり、品質が低下する場合があります。
- 仮想デスクトップ環境ではビデオファイルの一部は共有できません。
- Remote Access と Access Anywhere は仮想デスクトップ環境ではサポートされていません。基盤となる Citrix プラットフォームはオペレーティングシステムの再起動後、Remote Access、Access Anywhere エージェントを削除します。

重要な注記

CWMS ライセンス

Multi-Data Center (MDC) のライセンス

Multi-Data Center (MDC) のライセンスでは、データセンターをシステムに連結することが必要です。各データセンターはMDCシステムライセンスを必要とします。つまり、MDCシステムは、各データセンターに1つずつ、最低2つのライセンスが必要です。Single-data Center (SDC) では、システムライセンスは必要ありません。リリースバージョンの『Cisco WebEx Meeting Server 管理ガイドバージョン』の「MDCライセンスの概要」を参照してください。 <http://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/webex-meetings-server/products-installation-guides-list.html>。

主催者ライセンス

主催者（ユーザー）ライセンスがカウントされる方法は、バージョン2.5で大幅に変更されます。ユーザーは最大2つの同時ミーティングを、1つのライセンスのみを使用して主催できます。以前、複数のミーティングを主催するユーザーは、複数のライセンスを使用していました。ミーティングをスケジュールしたり、出席するためには、主催者ライセンスは必要ありません。リリースバージョンの『Cisco WebEx Meeting Server 管理ガイドバージョン2.5』の「ユーザーのライセンスステータス」を参照してください。 <http://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/webex-meetings-server/products-installation-guides-list.html>。

ハイパーバイザーサポート

Cisco WebEx Meetings Server は VMware 仮想マシンで実行されます。

- Cisco WebEx Meetings Server を展開するには、VMware vSphere と VMware vCenter の両方が必要です。ユーザーは vSphere クライアントを使用して、vCenter によって管理される ESXi ホスト上に Cisco WebEx Meetings Server OVA ファイルを展開します。
- Cisco WebEx Meetings Server 用のハイパーバイザプラットフォームとして使用するために、VMware vSphere 5.0、5.0 Update 1、5.1、5.5 または 6.0 を購入してください。
 - Cisco の GPL（グローバル価格リスト）から直接 vSphere を購入してください。Cisco は VMware 公認のパートナーおよびディストリビュータです。これは1つのベンダーから全てを購入したい方には便利です。
 - VMware との直接法人契約を通じて、vSphere を VMware から直接購入してください。
- Cisco WebEx Meetings Server はハイパーバイザーをサポートしていません。
- ハイパーバイザの要件の詳細は、『Cisco WebEx Meetings Server システム要件』（http://www.cisco.com/en/US/products/ps12732/prod_installation_guides_list.html）を参照してください。

4096 ビット証明書のサポート

Cisco WebEx Meetings Server (CWMS) は、その SSL システム証明書として 2048 ビットの証明書を使用するようにハードコーディングされています。証明書は、自己署名のもの、またはプライベートまたはパブリックの認証局 (CA) のもののいずれかになります。

CWMS はまた、以下のものとしてインポートした場合には、4096 ビットの証明書もサポートします:

- 安全な電話会議証明書
- SMTP 証明書
- SSO IdP 証明書
- SSL システム証明書バンドルの一部。

SSL 証明書バンドルの一部としてインポートする証明書は、プライベートまたはパブリック CA によって署名されている必要があります。

自己署名証明書の使用について

提供されている自己署名証明書の代わりに、パブリック署名証明書を使用することを強く推奨します。ユーザーのブラウザは、信頼を確立したコンピュータにルート認証局の証明書のリストがインストールされているため、パブリック署名の証明書を信頼します。

自己署名証明書を使用する Multi-Data Center (MDC) システムの場合、ユーザーは複数の証明書警告を受け取るので、システムを使用するにはすべての証明書を信頼し、インストールする必要があります。

自己署名証明書を使用すると、ブラウザはデフォルトでそのような証明書は信頼しないため、一部のユーザーはミーティングに参加することが困難になる場合があります。この場合は、サイト上のミーティングへの参加に移る前に、ユーザーは明示的に信頼を確立する必要があります。一部のユーザーはそのような証明書で信頼を確立する方法を理解していない場合があります。他のユーザーは管理設定によって阻まれる可能性があります。可能な限りパブリック署名証明書を使用して、最良のユーザーエクスペリエンスを提供してください。

『ユーザーガイド』は、ユーザー向けに、この問題に関する詳細を記載しています。“「ミーティングクライアントがロードされない」というトピック (“トラブルシューティング”の章、『Cisco WebEx Meetings Server ユーザーガイド』) を参照してください。これはhttp://www.cisco.com/en/US/products/ps12732/products_user_guide_list.htmlにあります。

サポートされている暗号

Cisco WebEx Meetings Server は、以下の暗号をサポートしています。

TLS Version 1.1

- TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA (secp256r1)
- TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA (rsa 2048)

TLS Version 1.2

- TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA (secp256r1)
- TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256 (secp256r1)
- TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256 (secp256r1)
- TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA384 (secp256r1)
- TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384 (secp256r1)
- TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA (rsa 2048)
- TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256 (rsa 2048)
- TLS_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256 (rsa 2048)
- TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256 (rsa 2048)
- TLS_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384 (rsa 2048)

SSO の設定について

このリリースでは、一意の Active Directory (AD) フィールドを SSO 設定のための NameID として使用することをサポートしています。SSO 設定のための NameID では、以下の AD 属性を使用することをお勧めします:

- メール
- SAMAccountName
- UserPrincipalName (UPN)
- TelephoneNumber
- EmployeeNumber
- ObjectSid

必須の SAML アサーション属性

アカウント自動作成機能を使用するには、以下の SAML アサーション属性が必要です。

- lastname
- firstname
- Email



重要

メール属性は、SSO 設定でアカウント自動作成とアカウント自動更新が無効にされている場合も含めて、常に必要です。

システムの拡張

既存（拡張前）システムの VMware スナップショットがある場合、既存システムを取り除くまたは削除する間に、拡張されたシステムが稼働していることを確認してください。これは拡張されたシステムによるアクセスが可能な、ハードディスク 4 の VMDK ファイルの偶発的な削除を防止します。

生産性向上ツールのアップグレードに関する通知

以前に展開された生産性向上ツールパッケージが新しく展開された生産性向上ツールパッケージと異なるバージョンまたはビルド番号を持ち、アップグレードがブロックされない場合、ユーザーの生産性向上ツールクライアントが [アップグレード警告] ダイアログボックスでユーザーに通知します。

SNMP v2 コミュニティ名

Cisco WebEx Meetings Server のこのリリースには、デフォルトの SNMP v2 コミュニティ名エントリがありません。既存の Cisco WebEx Meetings Server 1.0 デフォルトコミュニティ名である「CWS-Public」は、アップグレード後に削除されます。ユーザーによって追加された SNMP v2 コミュニティ名のみが維持されます。

既知の問題と通知

翻訳されたドキュメント

Cisco WebEx Meetings Server 1.1 MR3 の翻訳されたドキュメントは、英語版のリリース後 4～6 週間後に公開されます。

Apple iOS 6.x と SSO

Apple iOS 6.x には既知の問題があります。Safari 6 ウェブブラウザを使用している iPad/iPhone の内部ユーザーでは、シングルサインオン (SSO) が機能しません。iOS 7 で修正された Apple の欠陥によってこの問題が発生しました。Safari バグ ID は 13484525 です。

仮想マシン IP アドレスを変更している間のホスト名の維持

展開で構成されるホスト名の DNS エントリを変更しないでください。展開の一部である仮想マシンのホスト名を変更できます。対応する IP アドレスは DNS から自動的にピックアップされます。仮想マシンの IP アドレスを変更し、同じホスト名を維持する場合、以下の手順を実行する必要があります。

- 1 DNS の一時ホスト名を設定します。

- 2 仮想マシンのホスト名を、構成した一時ホスト名に変更します。
- 3 システムのメンテナンスモードを終了すると、新しいホスト名の変更が適用されます。
元のホスト名は、この変更を行った後は展開の一部でなくなります。
- 4 DNS の元のホスト名の IP アドレスを新しい IP アドレスに変更してください。
- 5 仮想マシンの一時的ホスト名を元のホスト名に変更します。
- 6 システムのメンテナンスモードを終了すると、ホスト名の変更が適用されます。
元のホスト名は新しい IP アドレスで構成されています。

ダッシュボードの問題 – すでに開始したミーティングを表示することができない

Cisco WebEx Meetings Server の今回のリリースでは、すでに開始された特定のミーティングがダッシュボードに表示されません。この問題は次のシナリオで発生します:

主催者より先に電話会議に参加することを許可する設定を有効にしてミーティングをスケジュールします。ある参加者が電話でミーティングに参加しますが、ウェブの部分には参加しません。ダッシュボードは、このミーティングが開始されており、1名の参加者がいることを表示すべきですが、そのことを表示しません。このため、ユーザーが複数のミーティングをスケジュールすることがあり、これはパフォーマンス上の問題につながります。

音声の設定

この音声設定では、G.711 は G.729 よりも良い音質になるので注意してください。詳しくは、“Cisco WebEx Meetings Server 管理ガイド”の「ユーザーの音声設定の構成について」を参照してください。

IP Communicator 7.0.x エンドポイント

CWMS ミーティングをつなぐ IP Communicator 7.0.x エンドポイントにより、次の条件が発生したとき、会議に音声品質の問題が発生する場合があります（エコーと他のノイズ）。

- IP Communicator がミュートされていない。
- IP Communicator を使用する参加者がアクティブスピーカーになる。

これを避けるためには、IP Communicator 環境（例: ヘッドセット、マイク、スピーカー）を微調整するか、別の従来型の電話を使用してください。

iOS デバイスで開始するミーティング

iOS デバイスで開始するミーティングは、記録できません。

進行中ミーティングへのダイヤルイン、ダイヤルアウト接続

ミーティングが□つのデータセンターから別のデータセンターにフェイルオーバーするとき、ミーティングへの着信と発信接続は自動的に再接続されません。接続を再確立するには、参加者は電話を切り、手動でダイヤルインします。

この問題は、次の場合に発生します。

- インストールしたシステムが大規模な MDC です。
- データセンターの 1 つがメンテナンスモードであるか、電源がオフになっている間にミーティングが開始されました。
- メンテナンスモードがオフになった後、またはデータセンターの電源がオンになったときに、別のデータセンターがオフになるか、メンテナンスモードになります。

Windows では .mp4 ビデオ形式を共有できません

QuickTime を使用するとき、次のメッセージが表示されます。“QuickTime が初期化に失敗しました。エラー番号 -2093。QuickTime がコンピュータ上に正しくインストールされているか確認してください。”

このエラーメッセージは、QuickTime.qts ファイルが存在しない、移動した、または利用できないことを示しています。QuickTime.qts ファイルは \WINDOWS\SYSTEM ディレクトリにあります。この問題を解決するには、QuickTime を完全にアンインストールしてから、再インストールしてください。

- 1 QuickTime Player の最新バージョンをダウンロードします
<http://www.apple.com/quicktime/download/>。
- 2 プログラムの追加または削除コントロールパネルを使用して QuickTime をアンインストールします。必ず、すべてをアンインストールを選択してください。
- 3 Temp フォルダ、C:\WINDOWS\TEMP の内容を削除します（存在する場合）。
- 4 ダウンロードした QuickTime のバージョンを使用して、QuickTime をインストールします。
- 5 Windows を再起動します。

補足説明

バグ検索ツールの使用

既知の問題（バグ）は、重要度レベルに従ってグレードが決まります。これらのリリースノートには、以下の説明が含まれます。

- 顧客から報告された重大度 1 - 3 の未解決バグ

- 顧客から報告された重大度 1 - 3 の解決済みバグ
- Cisco が発見した重要な解決済みのバグ

一覧中のバグの詳細を確認したり、Cisco バグ検索ツールを使ってその他のバグを検索することができます。

はじめる前に

バグ検索ツールにアクセスするには次の条件が必須です:

- インターネット接続
- ウェブブラウザ
- Cisco.com のユーザー名とパスワード

ステップ 1 バグ検索ツールにアクセスするには、<https://tools.cisco.com/bugsearch/search>に移動します。

ステップ 2 Cisco.com のユーザー名とパスワードを使用してサインインします。

ステップ 3 検索フィールドでバグ ID 番号を入力し、Enter を押します。

ヒント また、検索しようとするバグの ID (例えば、CSCab12345) の場所を入力して、特定のバグに移動することもできます。<https://tools.cisco.com/bugsearch/bug/<BUGID><BUGID>>

次の作業

バグを検索する方法、保存した検索結果の作成、バググループの作成についての情報は、ヘルプ (バグ検索ツールページ) を選択します。

Cisco WebEx Meetings Server Release 2.8 での解決済みの問題

Cisco WebEx Meetings Server Release 2.8 (Build 2.8.1.17) では新たに解決した問題はありません。

Cisco WebEx Meetings Server リリース 2.8 での未解決の問題

Cisco WebEx Meetings Server Release 2.8 (Build 2.8.1.17) では未解決の問題はありません。

Cisco WebEx Meetings Server リリース 2.8 での解決済みの問題

次の表は、Cisco WebEx Meetings Server Release 2.7MR2 で未解決で、本リリースで解決された問題の一覧を示しています。

表 1 : Cisco WebEx Meetings Server リリース 2.8 (Build 2.8.1.17) での解決済みの問題

識別子	重要度	説明
CSCvd28091	1	いくつかのセキュリティ上の脆弱性に対応するため、jdk/jre ソフトウェアをアップグレードする必要があった
CSCvc84858	2	selinux で適切なセキュリティポリシーが欠けていたために、音声の問題が生じていた
CSCvd03369	2	DB 例外のためにミーティングが終了できなかった
CSCvd47160	2	Firefox 52.0 (32 ビット) からミーティングに参加することができなかった
CSCve05932	2	[機密情報の暗号化] オプションをチェックすると、ミーティングを開始することができなかった
CSCvb67814	3	新しい代理者は、委任された古い定期的なミーティングの単一インスタンスを編集することができなかった
CSCvb75607	3	ユーザーセッションのセキュリティ保護は、エンドユーザーのページには影響しなかった
CSCvb78854	3	廃止されたミーティング番号を使って音声に参加すると、無効なミーティング番号が生成された
CSCvb79074	3	定期的なミーティングに多数 (35 を越える代理主題者) が追加されると、ブラウザが停止した
CSCvb96230	3	PCN ミーティングの代理機能は、マニュアル/設計通りには動作しなかった
CSCvc01124	3	2.6 から 2.7 へのアップデートは、rsa-cryptoj-6.1.3.2-13.x86_64 RPM のために失敗した
CSCvc03322	3	カスタムレポートの参加者ファイルには、誤った第一アクセス番号へのユーザーのダイヤルが表示された
CSCvc03356	3	ストレージおよびポートテストは、ストレージが IRP から到達できないとレポートした
CSCvc14829	3	Edge ブラウザーから一時的クライアントを使用してミーティングに参加しようとする、一時的クライアント名が長いこと失敗した
CSCvc31861	3	MSI を使用してミーティングクライアントをインストールすると、最初の起動時に、やはり新規ファイルが作成された

識別子	重要度	説明
CSCvc31886	3	セッションタイプ機能が設定を変更しなかったため、2.6 から 2.7 への DB ミスマッチが生じた
CSCvc44204	3	db_set_cron_timing.sh のため、再起動が遅くなっていた
CSCvc46118	3	[ミーティング中は誰でもプレゼンテーションを行うことができる]機能は、有効にしても動作しなかった
CSCvc46151	3	ダッシュボードのアップデートはスムーズではなく、アップデートがないときでもいくらかの時間のギャップがあるように見えた
CSCvc47765	3	HSTS 最大時間タイマーの値が増加した
CSCvc78296	3	CWMS PT は、Outlook のアドインリストで、パフォーマンスの遅れ/低下を示していた
CSCvc94595	3	OpenSSL Jan 2017 に対する Orion の評価
CSCvc96137	3	Outlook は、CWMS ミーティングと多数の招待者を含んでいるミーティングを開こうとすると遅くなった
CSCvc96249	3	Windows 10 の IE 11 は録画を適切にストリーミングできなかった
CSCvc97876	3	CWMS は、ストレージを交換し、メンテナンスモードから抜けると、再起動が必要になった
CSCvc98147	3	CWMS は SELinux が無効だとアップデートに失敗した
CSCvd20436	3	DB エラーのため、仮想マシンの再展開が必要になった
CSCvd20975	3	Edge ブラウザと一時的ミーティングクライアントを使用すると、Web EX ミーティングにゲストとして参加することができなかった
CSCvd41260	3	[保存のみ]オプションを使用して、Web のミーティングから削除された以前の代理主催者は、引き続きリマインダーを受信した

追加情報とサービス要求

サービス要求の送信についての詳細と追加情報については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/index.html>を参照してください。

また、Cisco Security RSS フィードにアクセスして、新規情報が入手可能なときに通知を受信することができます。コンテンツフィードは RSS フォーマットの 1.0 および 2.0 バージョンの両方で入手できます。詳細については<http://tools.cisco.com/security/center/rss.x?i=44>、

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2017 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.